

開基 160 周年記念ハバロフスク市訪問 報告書

新潟市代表団 参加議員

新潟市議会 副議長 阿部 松雄

” 議員 串田 修平

” 議員 高橋 哲也

訪問日程 平成 30 年 5 月 24 日から 5 月 27 日まで

5 月 24 日 (木) 新潟駅発 成田空港経由 ウラジオストク空港着
ウラジオストク市長表敬

5 月 25 日 (金) ウラジオストク空港発 ハバロフスク空港着
ハバロフスク市長表敬
開基 160 周年記念式典
祝賀レセプション

5 月 26 日 (土) 祝賀パレード観覧
海外代表団向けレセプション
アムール川遊覧船にて夕食会・花火鑑賞 (祝賀行事)

5 月 27 日 (日) ハバロフスク空港発 成田空港経由 新潟駅着

新潟市の姉妹都市であるロシア連邦ハバロフスク市が、本年 (2018 年)、まちが開かれてから (開基) 160 周年の節目を迎えるにあたり、新潟市をはじめとする姉妹都市や交流を深めている国内外の都市の代表団を招いて、盛大に開基 160 周年記念の祝賀行事を開催した。

篠田市長を団長とする新潟市代表団として、新潟市議会からは副議長を含む議員 3 名が参加したが、姉妹都市としての交流を深めるとともに、本市議会と親しい協力関係にあるハバロフスク市議会との覚書を交わすことが、このたびの訪問の目的である。

○ウラジオストク市長表敬 (夕食会) について

面会者 ・ヴェルケエンコ V.V. 市長

・ブィストロフ Y.A. 国際担当参与

・クシニール A.A. 国際関係・観光局長

ウラジオストク経由でハバロフスクへ向かうことになり、ウラジオストク市長から夕食会の場を設けていただいた。

1987 年、ウラジオストク市で開催された沿岸貿易見本市に新潟市が参加して以来、港を持つ都市同士として両市間の往来が始まり、1989 年には新潟港から戦後初の観光船がウラジオストク港に向けて出港した。その後、使節団の交換などの交流を経て、1991 年、新潟市において両市は姉妹都市提携の宣言に調印した。

この度は、2017年にヴェルケエンコ氏がウラジオストク市長に就任されてから新潟市として初めての訪問であり、公務でお忙しいところ夕食会での歓談の機会をいただいた。

ヴェルケエンコ市長は、姉妹都市である新潟市の篠田市長との初めての面会にあたり、「予てよりお会いしたいと思っていた」とのことで、大歓迎を受けた。篠田市長からは、近年、新潟とウラジオストクを結ぶチャーター便の本数が以前より減便されていることに触れ、今後の本数増加や定期航空路の再開と両市の発展を願っていると挨拶があり、阿部副議長からはヴェルケエンコ市長の就任を祝う言葉とともに、今年（2018年）の夏に新潟開港150周年の記念事業（海フェスタにいがた等）を開催するにあたり、新潟市とロシアとの経済・観光交流を期待していることなどを発言した。今後のお互いの交流人口の拡大に向けて意見交換を行い、和やかな食事会であった。



（写真）ウラジオストク市
ヴェルケエンコ市長（左）と阿部副議長

◇ハバロフスク市

- 面会者 ・ソコロフ A.N. 市長
・サフコフ S.N. 市議会議長
・クラブチュク S.A. 第一副市长（経済担当）
・ガニチェフ D.S. 副市长（市有財産担当）
・イワノワ T.N. 国際局長 ほか

○ハバロフスク市長表敬について

開基160周年の式典を翌日に控え、ハバロフスク市と姉妹都市を結んでいる代表団らが市行政府に一堂に会して市長表敬が行われ、順次、挨拶が述べられた。

新潟市からは、篠田市長がハバロフスク市開基160周年のお祝いと、招待の御礼、今後のハバロフスク市と新潟市との友好関係のさらなる発展を祈念して、ソコロフ市長へ挨拶をされた。

○ハバロフスク市長との昼食会について

市長表敬訪問後、お忙しいスケジュールの合間を縫ってソコロフ市長から昼食会に駆け付けて頂き、イワノワ国際局長、クチュク通訳同席のもと昼食会を催していただいた。

ソコロフ市長と篠田市長とは長年にわたり交流を深めており、気心が知れていることもあって冗談話を交えながらも、新潟開港 150 周年や北前船も話題に上り、和やかな昼食会であった。昔はハバロフスク～新潟間の定期航空路があったが運休期間を経て現在は 2 か月間のチャーター便の運航のみとなっており、今後は相互の友好、交流を深めるために更なるチャーター期間延長、定期便復活に向けて働きかけていくことで、両市長は意見を一致させた。

本来は、ハバロフスク市議会との覚書をこの昼食会で取り交わす予定であったが、サフコフ議長がスケジュールの都合により昼食会に参加できず、後日の海外代表団向けレセプション終了後に変更となった。

○開基 160 周年記念式典について

ハバロフスク市開基 160 周年の記念式典において、会場のプラチナ・アリーナに集まった市民や来賓など 3,500 人以上を前に、海外使節団を代表して篠田新潟市長から祝辞が述べられた。

「新潟市はハバロフスク市の最初の姉妹都市として 1965 年に姉妹提携を結びこれまで友好関係を育んできた。新潟市として、ハバロフスク市と姉妹都市の関係を結び、これまで様々な交流を通じて信頼関係を築いていることを大変うれしく、誇らしく思っている」と篠田市長からスピーチが行われた。

式典終了後には祝賀コンサートが行われ、姉妹都市からの文化団がそれぞれの伝統芸能を披露した。新潟からは、にいがた総おどり特別チームが樽砦の生演奏に合わせて下駄総おどりを披露し、その演舞は会場の方々を魅了、アリーナは大歓声に包まれた。



(写真・左)

記念式典のステージにおいて、
姉妹都市を代表し、新潟市・篠田市長が挨拶

(写真・右)

にいがた総おどり特別チームによるステージ



○祝賀レセプションについて

文化宮殿にて関係者、海外代表団、ハバロフスク市議会議員を交えた祝賀レセプションが行われた。ロシア文化を感じさせる素晴らしい演出で、市関係者や名誉市民らの挨拶の合間に様々な歌手のコンサートがあり、ロシアのエンターテインメントを存分に感じることのできるレセプションであった。各市の代表団ごとにテーブルに纏まっていたが、同じく日本から来訪された武蔵野市代表団の方々とも懇談し、情報交換できたこともあり、実りある祝賀会となった。

○祝賀パレード観覧について

レーニン広場にて開基 160 周年を記念した祝賀パレードが行われ、まちをあげての盛大なパレードを、特設スタンドから各代表団と共に観覧した。市の中心地である教会広場からレーニン広場までのコースで5万5千人もの人が参加する大パレードであった。ハバロフスク市の各区それぞれの特色を出した演出で、企業、大学生、子どもたちも個性を生かし、また趣向を凝らし参加していた。どちらかといえば観覧している人よりもパレードに参加する方の人数が多く、参画意識が高い国民性のように感じられ、素晴らしいパレードであった。

○海外代表団向けレセプションについて

レセプションでは招待された各都市の代表が順に挨拶をしたが、新潟市からは、公務のために一足先にハバロフスクを発った篠田市長に代わり阿部副議長が挨拶をした。

「盛大な式典やパレードを拝見させて頂き、感銘を受けた。ハバロフスク市と新潟市は互いの発展のために、これからも友好関係をより一層深めていきたい。」と述べ、乾杯した。

その後も、各代表団の代表者が通訳を通して開基 160 周年の祝辞や姉妹都市としての友好関係の更なる進展を期待することばを述べ、その都度乾杯をしたが、合間には華やかなロシア音楽の演奏や舞踊が場を盛り上げ、ロシア文化を感じるレセプションであった。

レセプション終了後、本市代表団はハバロフスク市議会のサフコフ議長にお会いし、覚書を取り交わすことができた。これは、昨年（2017 年）にハバロフスク市議会側から提案があったもので、2013 年に両市議会が交わした「友好交流に関する覚書」の内容をより具体化する追記であり、両市の青少年の交流推進について側面的な支援に努めることなどの項目について、双方で事前協議を行ってきた。

姉妹都市である両市の交流促進と、両市議会における協力関係の更なる進展を願い、合意のうえ、永井議長署名済みの書面にサフコフ議長からサインをいただいた。



(写真)
ハバロフスク市議会
サフコフ議長が覚書に署名

○アムール川遊覧船にて夕食会・花火鑑賞について

来賓、海外代表団とハバロフスクの市民の中から抽選で選ばれた方々と一緒に2隻の船に分かれて、アムール川を遊覧船で巡回しながら夕食会が行われた。船の中の余興は一人ずつスピーチを行い乾杯、その後ロシア民謡やダンスの披露があり、またスピーチをして乾杯と続き、大いに各都市との交流を深めるひと時であった。一時間が経つ頃、別の遊覧船に乗っているはずのソコロフ市長が登場するといったサプライズもあり、皆さんは驚くと同時に、遊び心を忘れない市長の配慮に感銘を受けておられた。

その後、新潟煙火工業が監修する花火大会が開催されアムール川に映る壮大な花火を鑑賞し、開基160周年の一連の日程が終了した。



(写真)
整備されたアムール川の堤防にて

○総括

ウラジオストク市は2016年以降、市長が不在だったが昨年ヴェルケエンコ新市長が誕生し、この度篠田市長とは初めての対面となった。双方が対面を楽しみにされていたこともあり終始和やかに夕食会が進んだが、お互いの市の現状やPR、これからの観光交流に関して話がはずみ、今後チャーター便の増便についてお互いに協力し合うことを約束するなど、今後も新潟市との様々な分野において連携協力できる期待が感じられた訪問であった。

ハバロフスク市では、開基160周年記念式典の日程を行う中で、篠田市長とソコロフ

市長との友好関係の深さを感じ、今後の二市間の姉妹都市交流に関して進展が期待できると感じた。特に、ソコロフ市長との昼食会では、チャーター便の拡大、定期便復活に向けて互いに実現に向けて取り組んでいくことを確認し合い観光に関しても期待が持てる会談であった。

姉妹都市提携から 53 年を迎え、またこの度は議会同士の覚書追記を取り交わして、国際問題もあり難しい課題もあるが、今後も友好親善、市民の観光交流など様々な分野において、両市間交流が今後より一層発展できるよう、市議会でも後押しをしていかなければならないと感じた。

最後に、今回ウラジオストク市、ハバロフスク市への代表団の一員として参加の機会と貴重な経験を与えて頂いたことを心から感謝、御礼申し上げご報告とさせていただきます。